

いしかねん だより

第4号

平成元年 12月15日発行
発行人 湯野 利雄
編集人 下口 数明
発行所 石川県精神障害者
家族会連合会

心病む人々の未来を見つめて

石家連会長 湯野 利雄

上記の題は、去る11月山梨で開催された全国大会の公開座談会のテーマです。移り変わる時代の中で、精神障害者を取り巻く環境も動いており、家族会活動は、しっかりと過去を踏まえ、現状を認識し、将来を見据えて進めていくことが、求められています。

今回の大会は、盛大で全国各地から、総勢1500名が参加したそうです。石家連からは、21名の参加で初めてのバス旅行でした。バスの中や宿で、家族同志が情報交換し、ねむい眼をこすりながら、家族会の活性化について、真剣に議論もしました。

石家連は、他県の活力ある家族会活動のように急速な発展は困難ですが、今年の事業を振り返りますと、一步一步、前進しているように思います。前会長が提案された「講演と映画の会」は準備など大変ですが、マスコミを通じての一般の方々への拡がりもあり、家族会の広報普及活動の大切さを再確認しました。そして心病む人々に対する偏見の眼も開いていくように思えます。互いに力を合わせて地道に活動を続けましょう。…… つないだ手のぬくもりを明日につなげよう！

講演と映画の会報告

しらぎく会 梶 義伸

去る11月12日石家連主催で開催した「講演と映画の会」は、100名が参加され、映画は、つるい養生邑病院「釧路のロマン」を、安心と安全の環境で、釧路の宮田先生の新しい開放的精神医療への挑戦 … 桃色の暖かい雰囲気病室やディルムの様子、また人間開放をめざす壮大な理想に深い感銘を覚えました。

講演は「家族会の役割と社会復帰」一心の病氣と家族の心構えと題して、宇都宮大学教育学部教授増野肇先生が話されました。その内容をまとめてみますと、

- ・患者はまじめで純な型が多く社会的対応が下手な人が多い。危機の時は悩み苦しみ、まわりが見えないトンネルの中の状態で、家族の対応には敏感なこと。
- ・家族の役割は本人の表情を読みとりながら、安心を送りつづけるようにすること。また同じ世界に立ち、一緒に行動してみること、例えばゴロゴロと寝ている時には一緒に寝ながら落着いて話をするのも良い。
- ・家族の限界を知ること。本人を家庭内に閉じ込めず、また家族も閉じ込めず、仲間や地域とのコミュニケーションが大切である。家族が力を集めて、行動することで社会復帰への場づくりがなされた例もだされました。

講演の後、質疑応答で家族としての対応の助言に、又先生の提案で6人グループで話し合い、いろいろ共通の悩み苦しみを話し出し、問題解消の手がかりになったと感謝の言葉が聞かれ、参加して良かったとの声が出た大変有意義な講演会でした。

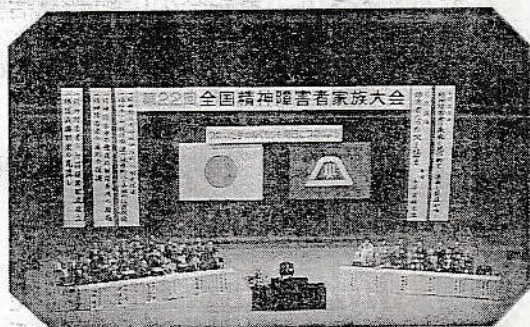
全国大会報告

I 記念講演から

心明会 宮井 翼

去る11月16、17 両日、第22回全国精神障害者家族大会に湯野会長以下21名と共に参加し、入場者1500名の盛大な大会の雰囲気驚いた。翌17日に行われた大会記念講演は「障害者だった父を語る」のテーマで、講師は元文部大臣の永井道雄先生でした。先生は家族会との心の繋りの為にお父様の生涯を語られた中で英国留学中、失意“挫折の中で死”を考えている時に届いた愛する人からの手紙の中での「弱者は生涯に幾度も死に、然し強者の死は唯一度である。」と言う話や身体の不自由な人と歩く時は、其の人の気持ちになって其の人に合す。そうして身体の不自由さで、失ったものと得たものとその両者を考えると、どちらが得であるか。そして身体の不自由さから来る悲しみと辛さは正面から避けてはいけない。苦しければ苦しいほど是れを真剣に受け止めて、最大の愛の表現を伝えていって欲しいとの考える人間に語りかけ、そう言う人間の考えをあからさまに導きはし

ない高邁な英知溢れた講話は感嘆と感動を一汐深く呼び起すものでした。帰路に入っても此の大会に同行して、始終一貫御世話下された事務局の職員を始め、会長を筆頭に和気あいあいの中で同行した諸氏、そしてこの一行でおおぼこ会の若き「母と子一組の勇氣ある参加、帰郷途に目の辺りにした信頼感と心なごむ語らい、今、社会復帰をして職親制度の中で全力稼働をして、報酬をつかみ、働ける幸福を両手につかんだ彼の眩しいほどの生甲斐！何時の日か、私達にもこの様な夢が叶えられる事を心から願って感想を終える事にします。



II 公開座談会を聴いて

松任保健所 北野 浩子

今回、石家連の皆さんと一緒に全国精神障害者家族大会に参加しているんな事を学びました。まず、公開座談会は精神障害者の未来をみつめてというテーマで精神医療映画監督の円城寺氏、精薄施設長の廣瀬氏、地域ケア福祉センターの小松氏、家族会員の向井氏、患者会の佐藤氏の話し合いが行なわれました。

その話し合いの中で、周りの者は患者さんの病気症状にとらわれがちでその人が持っている良い所を見逃している。医療機関でも良い所を発見する事を仕事をして欲しいと言われ、私自身も日頃患者さんと接する時、病気の面ばかり気にしていた事を反省させられました。又、偏見が強い事に対して誰もが持っているか持っていたはずである。世間では精神

障害イコール怖いというイメージがあるため、それに対して、外（世間）に出て本当の姿を見てもらうことが大切だという話もありました。その点、患者代表として佐藤氏が仲間のためにも自分達自身が訴えなくてはならないといい、出席された事はすばらしい事と思いました。その他、大会では精神障害者福祉法制定に向けて家族の強い団結を感じました。

おわりに、夕食後、皆で意見交換をしましたが、家族のエネルギーな姿に感心しました。又会場でかなり高齢な方が杖をつき、それでも力強く歩いている姿をみて思わず胸が熱くなりました。今後まだまだ未熟な私ですが、精神保健活動に頑張りたいと思います。

Ⅲ 初めて全国大会に参加して

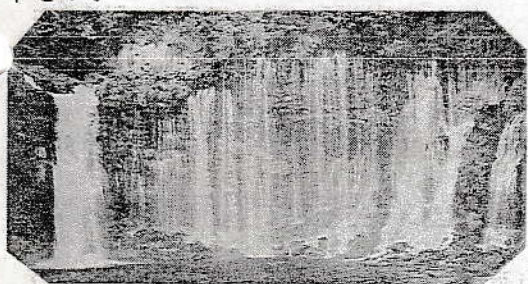
くろゆり会 西出 外次

今年初めて全国大会に出席し、本当に意義ある大会だと思いました。

11月16日 曇り空を仰ぎながら、石家連一行21名は、石川県精神保健センターを中型バスにて一路山梨県へ午前8時30分出発、途中小雨の区間もありましたが、山梨県甲府石和の会場へ15時30分到着。車に7時間、揺られながらも誰一人疲れた様子もみせず、すぐ四つの分科会に分散し、討議に参加。残念ながら、途中参加でしたが、僅かの時間にその内容を把握しました。

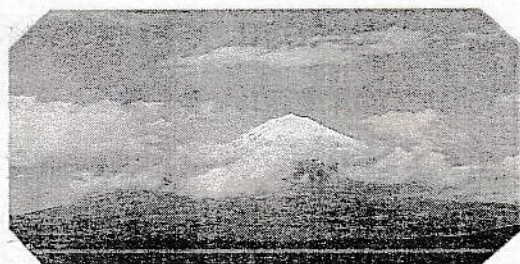
第二日目は9時にホテルを出発、山梨県民文化ホールの大会会場へ。1500余名の各県代表の方々がビッシリ広い会場を埋めつくし、中には腰をくの字に曲げ、やっとの思いで席についておられる何人かの方々は私はこの目で見ました。又中年のお母さん方も私達と同じ悩みをもちながら、子供達の明日を考えて参加され、遊び半分に参加された方は一人も居ません。皆さんの真剣な雰囲気の中で大会は、開会、公開座談会、式典、最後の記念講演と15時30分まで進行しました。

二日間の意義ある大会が、万歳と蛍の光の音楽で終り、来年は熊本でと、別れを惜しみました。残念ながら、紙面の都合で大会内容は記載できない事をお許し下さい。



第三日目のスケジュールは、富士五合目、富岳風穴、白糸の滝の三か所の見学コースでホテルを出発した時は、曇り空で、もしかして入山禁止になるのではと心配していましたが、富士一合目あたりからウソのように晴れ上がり、五合目到着と同時に皆が童心に帰り、カメラのシャッターをきる人、雄大な景色を眺める人、腹一杯富士の空気を吸いました。

富岳風穴は中が薄暗く腰を曲げて通ること約20分で、元の場所へ戻り、最後のコース白糸の滝を見学。実に壮観と言おうか、やさしさにあふれた筋状の糸が、白煙の様に落下する姿は自然ならではの感じに胸を打たれる思いでした。



さて私はこの大会に参加して何か意義のある報告になれば幸いと思い、最終日の見学コースに照準をあてて、その様子を伝えるために二枚の写真を添えてみました。先ずこの雄大なる雲にそびえる富士山こそ男性であり、父親で、このやさしさあふれる白糸の滝こそ言うまでもなく母親なのです。富岳風穴の中に入っている我が子、或は身内の人をトンネルの中から少しずつでも明るい処へ連れ戻す義務があり、そのためには人間貧乏になってはいけません。誰でも幸福で生きがいのある生活をしたいと願っています。それにはあらためて自分の心の中を点検し、様々な偏見を打ち破る勇気を持ち、あらゆる差別を解消するためにすべての事を話せるネットワーク作りを広げ、世間の偏見に負けてはなりません。日本の政治も大きく変貌しつつあり、山は動き出していると言う力強い話も聞いてきました。今後行政に対しても私達は耳を傾け、共に考えようではありませんか。

お知らせ！

おめでとうございます！

- ◎全国大会全家連理事長表彰
みのり会会長 佐野 昭三氏
家族会活動功労者として。
- ◎石川県知事表彰
石家連会長 湯野 利雄氏
精神保健事業功労者として。

＊＊家族会だより＊＊

☆ むつみ会から

むつみ会会長 西 栄 作

だんだんと日を追う毎に冬の訪づれに向う師走に入りました。

私達家族会は老令の方が多く、心身共に他の人には解らない心の悩みを持つ親子家族でございます。その慰めは何と言っても、国・県・各種団体の耐ゆまさる御努力により、昨年7月の精神衛生法より新保健法に改定され、そしてこれを機会に我々の家族会に活動、いろいろな研修のすすめ、上司に進言響かせる事により、その努力の成果を認めて戴く機会を得る事になったので、此のチャンスを逃がさず、会員凡てが悲願している福祉法の制定に、一步でも一日も早くその制定を見る日を皆で願おうではありませんか。そのために最北端に住む我々も万障を押し切り譲り合い、「全国大会」の盛大さ、真剣さを身に受け、「北信越研修会」「講演と映画の会」「病院長を囲む会」に出席し、その実態を会員に打ち込み、前進しようと真剣に取り組んで居ります。又、共同作業所の仕事の面でも、真剣に僻地の地域性を考え、それなりに皆で相談し合って居る訳です。

珠洲は皆様御承知の通り、僻地と地勢の複雑さ、それに加えて交通の不利で、下請け作業もなく、加賀方面の様な温泉地の土産菓子箱、簡単な電子組み立てなど見学させて戴けば戴く程、矢張り地の利に恵まれており、到底我々の届かない作業だと唯々羨むばかりです。そこで今年5月頃より、当会の土地柄で考へる事は「ぜんまい」「わらび」の時期に、家族会で親睦も兼ね、山菜取りに力を入れ、漬物に取り組んで見ようと言う結論に一致したので、来年はその時期になったら、懸命に努力して会の一助にし、貧困財源に少しでも資せればと念じて居る訳です。各家族会の会員の中にこの漬物に関して、すでに御経験のある方も居られるのではないのでしょうか。若しお在りでしたら、仕事の留意点等、珠洲保健所内「むつみ会」宛御届け願えれば幸甚に存じます。会員の皆様方考えて見ますれば、今年も後僅かになりました。どうか悩める家族を助けるのも健康

です。佳き年を御迎え下さいませ。

編集後記

全国大会特集になりました。お寄せいただく原稿が長くなり、嬉しい限りです。皆様の活動の勢いを感じます。